

農業農村の振興と活性化に及ぼす農業農村整備事業の効果に関する研究

Research on effects of agricultural and rural improvement provide promotion and activation of rural environment

○木下貴裕*・小原利勝*・山本拓郎*・上橋崇宏*

○Takahiro Kinoshita, Toshikatsu Kohara, Takuro Yamamoto, Takahiro Kanbashi

1. はじめに

本研究は、農業の振興と農村の活性化を目的として実施されてきた種々の農業農村整備事業の効果は、どのような形で当該地域やその周辺にもたらされてきたかを評価する手法に関する研究を行うものである。

本稿では、研究の三年目に当たる平成 22 年度の研究内容について報告する。平成 20 年には、事業効果を数値測定する基本的な枠組みを設定して、統計資料及びアンケート調査等をもとにした評価を行い、手法としての基礎を固めた。次いで、平成 21 年度は、多岐に亘る効果の概念・意味が一般的に理解されやすいよう、効果が現れてくる過程を「効果発現モデル」として図式化した。そして、その図式の上で、直接効果、間接効果、相乗効果の性格を再確認するとともに、定量的に算出が可能な効果や定性的な評価が重要である効果、各効果の位置づけも確認をすることができた。その結果、効果の検証方法とそれに向けた調査方法の概略見通しを付けている。

そこで、平成 22 年度は、平成 21 年度に提起された、調査及び効果の検証方法を、より精緻で実用性の高いものとして確立することを課題として、熊本県八代郡氷川町竜北地区を対象に、「効果発現モデル」の充実と各効果（直接効果、間接効果、相乗効果）の算定手法を策定した。

2. 調査・検討

(1) 効果発現モデルの充実

調査・検討作業は、平成 21 年度に示された手法 (Fig. 1) に基づき、「効果発現モデル」を用いて、その妥当性を検証した。

調査は、「効果発現モデル」に基づき、氷川町役場、道の駅竜北、関係土地改良区を対象に聞き取り調査を行い、氷川町における各種事業の導入状況と種々の効果の発現状況を把握した。また、近未来の事業計画とそれにより発現すると想定される効果を予測として整理した。

この結果を踏まえ、平成 21 年度で示した「効果発現モデル」に若干の改訂を加えた (Fig. 2)。改訂のポイントは次の二点である。

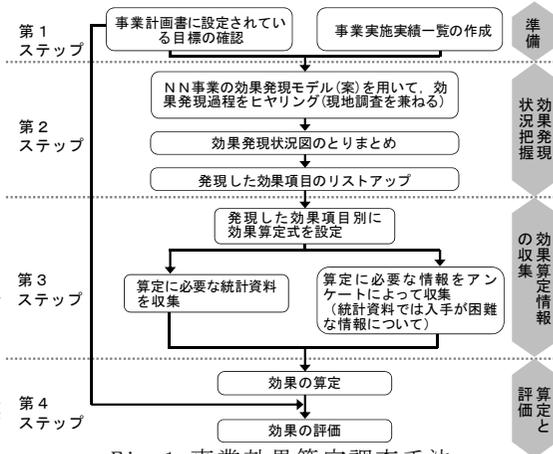


Fig.1 事業効果算定調査手法 (investigation method)

*熊本県土地改良事業団体連合会

Kumamoto prefectural Federation of Land Improvement Associations

[キーワード] 直接効果, 間接効果, 相乗効果, 効果発現モデル, 氷川町, 道の駅竜北

- 1) 直接効果, 間接効果, 相乗効果の区別の明確化
- 2) 効果測定の方法として, 「経済指標」として定量的に評価するものと, 「地域の魅力指標」として定性的に評価するものの区別の明確化

これにより, 農業農村整備事業, 関連事業, 予定される諸事業が1つのモデルとして位置づけられ, 近未来の農村農業振興計画策定, 新規事業の企画等への活用が可能となった。

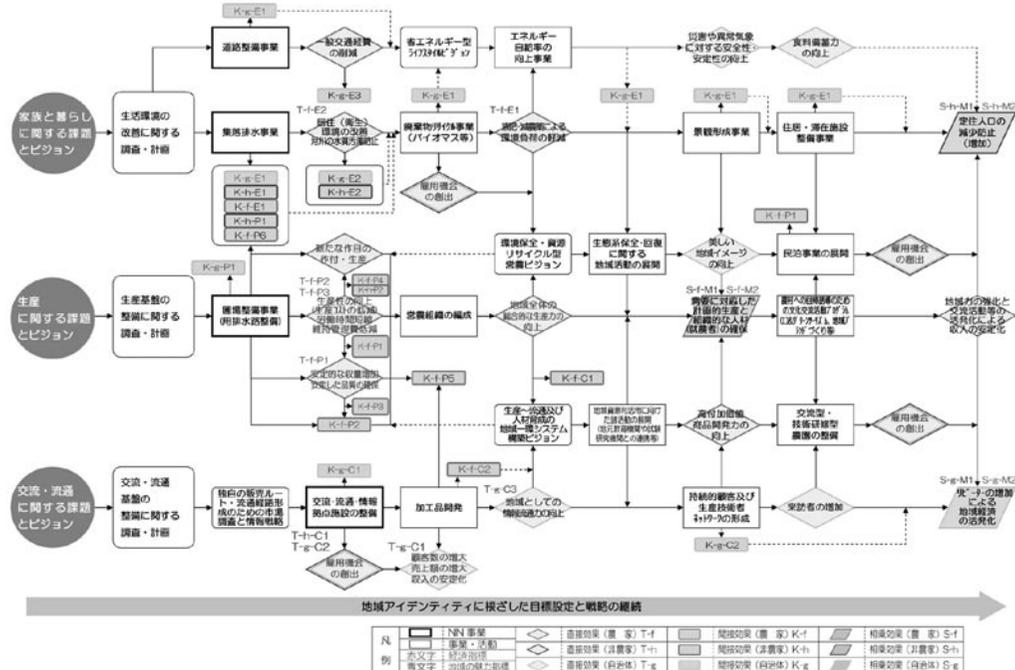


Fig. 2 効果発現モデル (effect appearance model chart)

(2) 効果算定

効果の算定手法については, 各効果を, 金銭に換算することのできる「経済指標」(定量的効果), それ以外を「地域の魅力指標」(定性的効果)に区別し, 直接効果 (T), 間接効果 (K), 相乗効果 (S) に分けて整理し, それぞれ算定式とデータソースについて, 整理を行った (Table.1)。この算定式を用いて, 各効果の発現状況の評価や効果の地域間比較が可能となった。

3. まとめ

平成 22 年度の成果で, 事業による効果の発現状況とその評価手法が明らかになり, 所期の基本的研究目的は一定達成することが出来た。

今後は, 合理的な農業農村整備事業の企画・立案を目的に, 効果を向上させるための必要かつ効果的な事業展開を示す「近未来型効果発現モデル」の開発に挑むものである。

Table. 1 効果算定式 (抜粋) (calculation type of the effect)

効果算定項目	集計単位	算定式	データソース
直接効果 T-f-P1	地区 農家	作物生産効果 (算定マニュアルより) = 〇〇〇, 〇〇〇千円	アンケート調査 6
直接効果 T-g-C1	市町村	物産館売上額 (H17~21 までの累計) = 〇, 〇〇〇千円	物産館資料
間接効果 K-f-P1	地区	農業外収入平均値-計画当時の値×農家戸数 増加	アンケート調査 4-問 5 (過去 1 年間)
間接効果 K-f-P5	地区	〈定性的評価〉 「直売所などに積極的に出荷するようになった (22)」+「農産加工品づくりに参加するようになった (3)」との回答数: 25	アンケート調査 6
相乗効果 S-g-M1	地区	〈定性的評価〉 「町外からの買い物客や観光客が増えて活気がでてきた」と回答数: 83	アンケート調査 3-問 1
相乗効果 S-h-M2	地区	Sh=Hp (定住者 1 人当たりの納税額) × Nh (増加した定住人口)	市町村データ